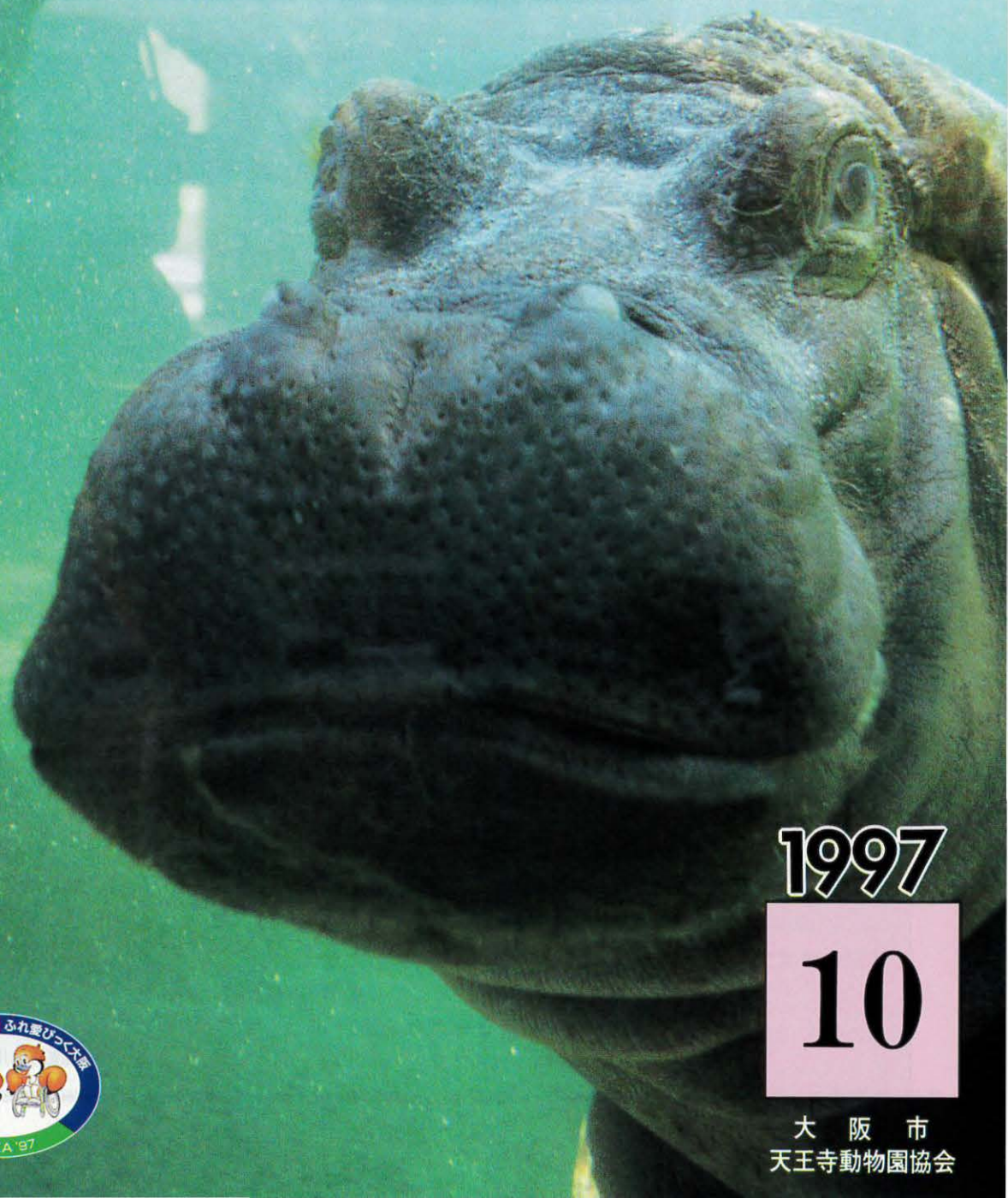




# なきごえ

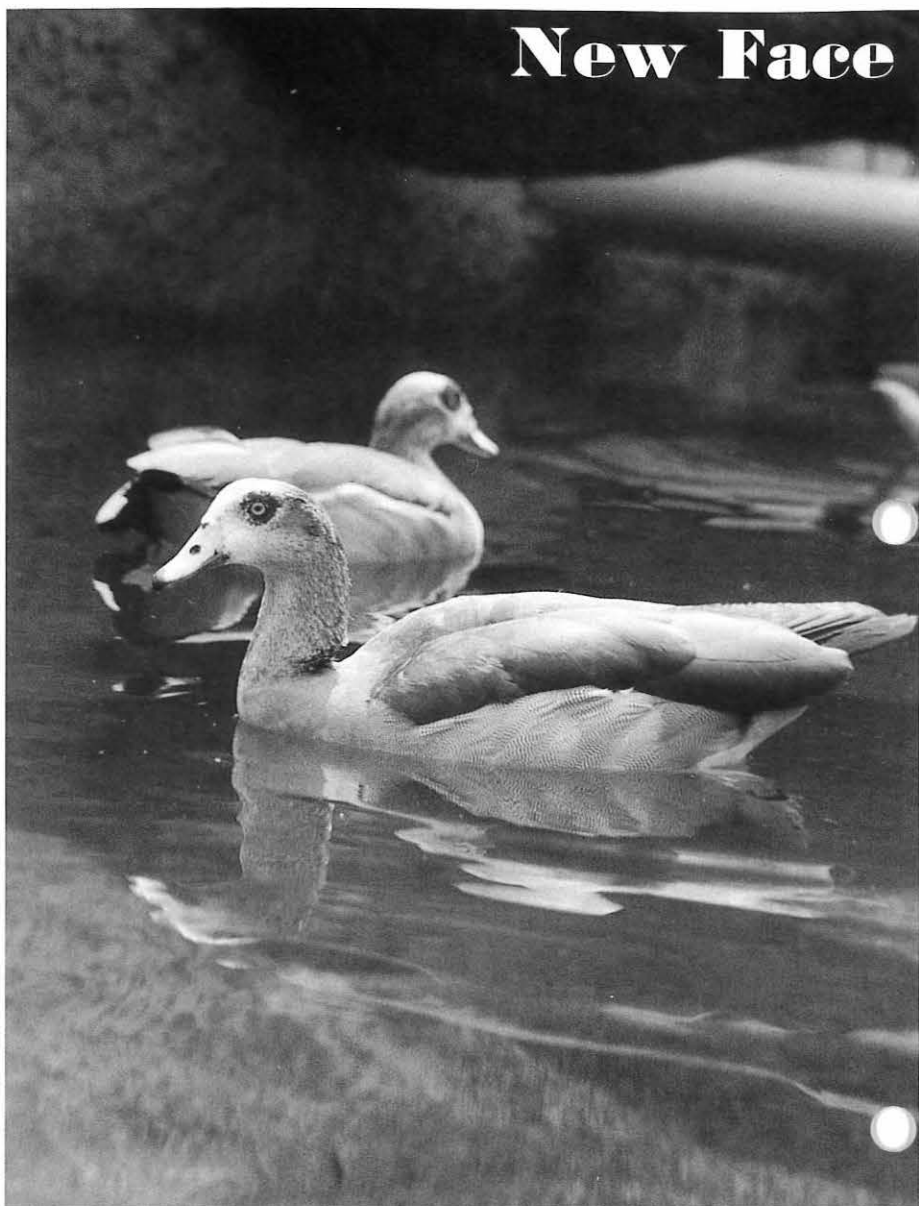


1997

10



大阪市  
天王寺動物園協会



(撮影：落合 正彦)

- 2 — New Face エジプトガン (落合正彦)
- 3 — 動物と私 殺生から生まれる慈しみの心 (大迫義人)
- カバウォッチング カバ (市川久雄)
- 4 — ウガンダのカバの野生 (宮嶋康彦)
- 6 — 水中透視型の新しいカバ舎の完成 (中川哲男)
- 8 — グラフZOO 新しいカバの展示場  
オープンまでの足跡 (高見一利)
- 10 — ケンちゃんの好きやねん動物園 (松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY (竹田正人)

## New Face

## ||||| 動物と私 |||||

### — 殺生から生まれる慈しみの心 —

今年、神戸の中学生による犯罪史上類のない残虐な事件がありました。殺人を犯した自称“酒鬼薔薇聖斗”君の、その動機は、相手への憎悪ではなくただ殺したかっただけだそうです。また、学校では、相変わらずいじめが横行し、いじめられた子の自殺が絶えません。なぜ私たちは、目的もなく他人をいじめたり殺したりするのでしょうか。

ヒトという動物は、鳥やけものを襲ってその肉を食べることで、大脳を発達させることができたと考えられています。原始時代、動物を狩る勇気がなかったら、ヒトは繁栄しなかったことでしょう。また、有史以来、そして現在でも人間社会には戦争がつきものです。よく考えてみると、私たちの祖先の多くは、戦争に勝った、つまり他人を殺してきた人々です。つまり結果として、殺戮の能力を、もしくはそれと根っこを同じくする攻撃性を私



大迫義人 さん  
(福井県自然保護センター企画主査)

たちは生得的に持っているのです。

「攻撃」という本を書いた動物行動学者のK.ローレンツは、ホシムクドリでもしろい観察をしています。本来、虫を食べるこの鳥を長いこと飼育していると、目の前にあたかも虫がいるかのように飛び上がり捕まえようとしたそうです。動物は、ある欲求が満たされないとそこに対象があるように振る舞ってしまいます。誰かれとなくその対象としてしまういじめや殺人と同じではないでしょうか。

田舎で育った私は、アリ、カエル、ヘビ、鳥など、身の周りにいる動物を遊びの中で殺してきました。おそらく、多くの大人は私と同じ経験を持っていると思います。しかし、だからといって、残酷な人間になっただけでしょうか。いいえ！逆に、踏みつぶした動物のむごい姿を見る度に、無益な殺生がなくなってくるのです。殺生から生まれるのは、さらなる殺生ではなく、罪悪感と慈しみの心です。

認識に基づかないしつけや教育は、時に不幸な結果を生みだします。大人は、残酷になるといって殺生を禁じますが、幼少時代には、特に男の子には、発達課題として動物の殺生が必要なのではないのでしょうか。

(おおさこ よしと)

## エジプトガン カモ目 カモ科

サハラ以南のアフリカに分布し、つがい番または家族群で生活しています。換羽時には100羽ほどの群れをつくる場合があります。このガンは、新カバ舎でカバと同居展示のため、熊本市動植物園からいただきました。

## カバウォッチング

カバ  
ウシ目 カバ科

*Hippopotamus amphibius*

アフリカに生息し、日中は20~30頭位の群れで湖や河川・沼などの水中あるいは陸上で休み、夜間陸上にあがり草などを食べます。

(撮影：市川 久雄)



# ウガンダのカバの野生

宮嶋康彦

有限会社  
オフィス・ヒッポ  
代表

コング(旧ザイル)と国境を接したクイーン・エリザベス・ナショナルパークで、きっと生涯にわたって記憶が薄れないだろうと思われるカバとの出会いを果たした。



カバのテレビ番組を制作するために、およそ2ヵ月の予定でウガンダを訪れたのだった。テレビクルーと、ドイツ人動物学者、案内人、通訳など取材チームは、カジンガチャンネルという自然の水路の草地にテントを張った。その最初の夜のことである。眠っていたぼくは奇妙な音に起こされることになった。

ブチッ、ブツッ、ブチッ、ブツッ…フーッ…その音は草が引き千切られているようだった。とっさにカバだ!と思った。テントのすぐそばでカバが草を食べているのである。ぼくはシュラフのジッパーをそっとおろして上体を起こした。そして、カバのテリトリーのただ中にテントを張った幸福に感謝した。「ながく、こんな日を夢見てきた」と、胸は幸せな気分で張り裂けそうだった。

すこしずつカバの食事の音は近づいてきた。でもけっしてテントを襲うようなことはない、と動物的カンがはたらいたのか、不思議と恐怖心はなかった。ぼくは起こしていた上体を臥せて仰向けになり、心にテントの果ての星空を浮かべながら全身でカバを感じていた。となりのテントからディレクターとテレビカメラマンの寝息がきこえていた。

ぼくは、再び上半身を起こして、カメラバッグからカメラを取り出した。ストロボをセットしてテントの小窓のジッパーを下ろした。月明かりにカバの姿をうっすらと確認することができた。しかし、ピントが合わせられるほどの明るさはなかった。目測で距離計を合わせてシャッターを切った。カバは2頭だった。親子のカバがストロボの一瞬の光のなかに顕れた。カバの皮膚はストロボの光を反射するほどに、つややかだった。筋肉は引き締まり、脚がすっと伸びて大地を踏んばっていた。明らかに動物園のカバとは異なっていた。野生のカバとは、これほどに精悍なのか、と衝撃をうけたといっている。



飼育下のカバはどれもこれも肥満してるなあ、とぼくは嘆息していた。そうはいつでも動物園のカバへつよい愛着があるぼくにとっては複雑な心境だった。でもこのカバの野生を人々に伝える仕事を怠らなければ動物園のカバも、もっともっと野生を尊重してもらえるかもしれないと考えた。カバの宝庫といわれるウガンダで、ぼくは多くの人にカバの野生を伝える役目を負ったな、と自覚したのだった。

カバへの興味もずいぶん深みにはまったな、と振り返る。

小学生から中学生にかけて、スズメ、カラス、ハト、ヒバリ、ネコ、イヌを飼った経験はあるのだが、カバに出会うまでは特に動物好きという自分に気づくことはなかった。

12年前のことである。当時ぼくの友人の女性ライターが、名古屋市東山動物園に高齢の動物たちがいて、それぞれ個性的で面白いらしい、という話をした。彼女は名古屋の男友達からそのことを聞いたというのだった。「彼は日本経済新聞の名古屋本社で記者をしてね、いちど遊びがてら来ないか」と誘われたというのだ。それで、よかったのかどうか判らないけど、ぼくがくっついていくことになった。彼は気さくな男ですぐに打ち解け

て動物園の印象を語り合うようになっていった。彼女の誘いによって、初めて東山動物園を歩くことになったとき、ぼくら3人を、当時の園長が案内して下さった。そこでカバと対面することになったのである。

カバは大きかった。プールから上がってくるカバの背中が、まだか、まだあるのか、という具合にでっかいのだ。ぼくのすぐそばに、こんな大きな隣人がいたとは、まったく不覚だったと無知を恥じ、また逆に喜びもした。

園長が自慢なされた。

「このカバは、これまでに16頭(現在19頭)の子どもを生んでましてね、世界多産タイ記録なんですよ」

しかも、その子どもたちは日本中の動物園にもらわれていて、子をなし、子はまた子をなしているというのだった。16頭という数字が、ぼくのなかで偉大な骨格として浮上した。それなら、子や孫や曾孫に会ってみたいと思った。

ところが、孫や曾孫の所在はおろか、子どもについても、行き先がはっきりしないものがある、というのだった。このことが、ぼくがカバにのめり込むキッカケになった。動物園というのは、来園者と、飼われている動物の家族愛に満ちた場所だという。今となっては浅はかな認識しか持っていなかったために、なにかへんだな、という不穏の霧が胸を覆ったのだ。たぶんそのとき、動物園という施設

そのものが、濃い霧に包まれていることを直感したのだと思う。動物園側が解らないなら、自分で捜してみようと思った。

動物への慈愛にあふれた動物園が、子孫の血の流れを把握していないというのは、おかしいのではないかと、という思いが毎日に膨らんでいった。血統が不明だという情報は、かならず、悪しき血の問題を引き起こすことになるのではないだろうか、そんなことも推測した。あるカバの夫婦が交尾を果たし、精子を迎え入れた雌の体内

で「おや、おまえは名古屋の…」「そういうあんたも名古屋なのね」ということが、動物園の認知しないところで起こるのではないかと考えたのである(それは、とっくに起こっていたのだ)。

現在、日本の動物園で飼われているカバの総数は59頭。その内の6割強が名古屋の血を引き継いでいる。残念ながら日本のカバたちは幸福な状態ではない。子どもを生ませても引き取り手がないから、雌雄を別居のかたちで飼育しなければならない。近親交配も心配だ。しかし、ぼくらの目の前には、カバという生命が存在している。このカバたちを、すこしでもカバという種をまっとうさせるべく飼育してやらなければならない。そのことを一人一人が自覚を持たなくてはならないだろう。すくなくとも、公共の施設に飼われているカバは、納税者として、カバ(他の飼育動物も同様)と無縁ではない。動物園がそもそも税金によって運営されているのであれば、動物の飼育に負担することになるのである。私設の動物



園でも入場料を払えば、そこから責任の一端を担うことになるはずだ。自覚なしには野生のカバは見えてこない。カバの明るい将来は、ここでもやっぱり人にかかっているのである。

野生のカバは、100メートル走なら、カールルイスよりも早く走る。カバの走る姿は、筋肉の躍動そのものだった。疾走するカバを、クイーン・エリザベス・ナショナルパークで間近にながめながら、動物園のカバは一生走ることがないのだな、と、ちょっと切ない気分になったことを思いだす。夜に水から上がって草を求めカバを日本でも見てみたい。ブチッ、ブツッ…という食音を多くの人に聞いてもらいたい。

\*参考図書  
『日本カバ物語』情報センター出版局  
『アフリカ・カバ探検』偕成社

(みやじま やすひこ)

# 水中透視型の新しいカバ舎の完成

## § 1. 計画

天王寺動物園の将来計画「ZOO21計画」の一環として老朽化したカバ舎の建替えを目的に、平成6年(1994)に基本計画を策定し、平成7年に基本・実施設計を行いました。今回の動物舎建設計画も爬虫類生態館「アイファー」と同様、生態的展示を基本コンセプトとしており、この建設計画のために動物園では職員のなかからプロジェクトチームを組織して、基本計画の段階で8回の会議



等身大のカバのモニュメント(ブロンズ製)

実施設計の段階で18回の会議を開催し、実施設計を仕上げました。

ZOO21計画では老朽化動物舎との整合性を図りながら動物舎の建替えを生態的展示に置き換えていくという計画ですが、次期のカバ舎の建替え計画に当たって、模索検討していたところ、過去に見た図鑑に掲載のアフリカ・ムジマスプリングスの水中のカバの写真やアメリカ・トレド動物園の水中遊泳のカバの写真、或いは以前、訪問したシンガポール動物園のコピトカバの水中遊泳の素晴らしい等を感じたことが日本で初めて建設する発想の引き金となりました。

なお、本計画に係る予算は設計費に3,500万円、建築・設備費等に13億5000万円を要しました。

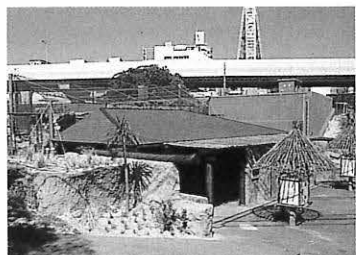
## § 2. 事例調査

計画にあたっては平成7年の春に設計コンサルタントに北アメリカにおける透視プールのカバ舎を導入している先進2園の調査を命じました。1園はすでに10数年前に建設し、成功を取っているオハイオ州トレド動物園、他の1園は建設中のカリフォルニア州サンディエゴ動物園です。

トレド動物園ではアフリカゾウのプールを合わせて1,400トンの水量を見事に清浄な状態で濾過し、サンディエゴ動物園は500トンの水量を濾過

予定でありました。

私も平成8年夏に先の2園と生態的展示を導入している北米の先進動物園数園を視察調査し、トレドでは幸いなことに子供カバの哺乳シーンやカモと一緒に



ビューイングシェルターとバードケージ

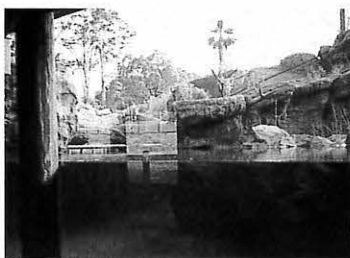
に遊泳している素晴らしいシーンが観察できました。サンディエゴではカバの遊泳が人気を呼んでいましたが、水中に糞の細かい夾雑物が浮遊しているのが気になり、尋ねたところ、やはり濾過の能力不足ということで、急遽さらに1基追加工事中ということでした。しかし、植栽が見事に繁茂し、十分参考になりました。この他ブロンクス、セントラルパーク、シンシナティ、ブルックフィールド、ウッドランドパーク等の動物園の生態的展示が特に印象的で、カバ舎の景観構成に役立ちました。

## § 3. 動物舎建設とサインの工夫

新カバ舎の建設は平成8(1996)年5月末に契約され、7月末に着工し、竣工は平成9(1997)年7月15日でした。このカバ舎は従来のカバ舎と違って、見せる場所を限定し、水面上からカバを見下ろすビューイングポイントを2カ所、水中遊泳をガラス越しに見るビューイングシェルター1カ所を設けました。また、地上部の建物を見せないよう全体的に低く抑え、擬岩、擬木で偽装し、遮蔽植栽も用いました。工事では建築面積の半分が濾過槽等の機械管理室にあたり、これらの水槽を地下に求めるためと2m掘り下げたビューイングシェルターやプールのため、深い土留め壁や掘削を必要としました。建築物は機械室、管理棟、放飼場、植栽帯、ビューイングシェルターからなっています。展示外構では放飼場やプールはケニア・マサイマラ野生動物保護区のマラ川をイメージし、川の土堤を擬岩で地質・地層をも造形し、アフリカ・

サバンナに近似種の植物を植栽し雰囲気醸しだしました。

サインについては、触って楽しんで、



透視プール

理解していただけるよう等身大のカバのブロンズ製モニュメントを設置し、その大きさを感動していただき、擬岩の洞窟には現地の人の生活痕跡のある壁画(狩人とカバ)、土器と焚き火跡、カバの頭骨レプリカを配し、ビューイングシェルターでは現地の泥壁民家を模して壁画(カモシカ、ゾウ、カバ等)を描いたほか、アフリカの民具を配しました。学名札、制止札は擬岩風とし、解説板はセラミック板としました。

## § 4. 特徴・仕様

このカバ舎は最大4頭まで飼育できるよう整備しており、現在のカバ舎に比べて敷地面積で約5倍、建築面積で3倍、展示プールについては容積で約7倍となっています。

展示動物では現在の2頭のカバのほか、今年度中に外国から若いメスを導入する予定で、これ以外にエジプトガンヤマサギ等の鳥類を飼育展示し、カヤツリグサ、アシ、ドラセナ、アカシア、アロエ等の植物も植栽しました。

また、最も大きな特徴は水中での遊泳行動や哺乳シーンを45mm(15mm厚×3枚貼り合わせ)の強化ガラス越しに



一般プール

観察することができるように、大規模な濾過槽6基を備え、プールの集塵・濾過殺菌・加熱などの水処理施設を充実させました。

この濾過システムではプール底より引き抜かれた水が幅2mmのスクリーンストレーナーをとおり、濾過槽に送り込まれ、殺菌、中和されプールに戻りますが、1日に38回全水が入れ替わり、1循環に38分を要しています。また、6基の濾過槽は各々1日2回逆洗され、冬には熱交換機によって最低18度は維持されます。(別表.参照)

## § 5. カバの捕獲、移送、馴致

新しいカバ舎への移送に伴う捕獲を8月中旬のカバ舎引き渡し後の盆明けとし、捕獲檻については当園の溶接技術を結集し製作することとしました。また、8月19日の捕獲実施までの間、関係職員等と4回にわたってミーティングを行い、最終的に8月12日には飼育課職員の飼育技術研修として最後の確認を行いました。カバについては8月15日よりエサを減少し、徐々に絶食としました。18日には捕獲檻をレッカーで設置し、19日午前9時から、先ずオスの捕獲に取りかかりました。オスは釣りエサで簡単に檻に収容できましたが、興奮し、前後上下への激突を繰り返しました。特に45トンレッカーで吊り上げているときは底板、前部の鋼板が湾曲しているのには肝を冷やしました。オスは11時半に新しいカバ舎へ順調に収容できたこともあって、昼からメスの捕獲としました。変形した鋼板は新しく製作し、2時前に檻を設置しましたが、異様な雰囲気警戒してメスはなかなか檻に入ろうとしませんでした。4時近くなって、いつまでも変化が無いようであれば強行手段に移ると決め、寝室内のメスを工事用ブルーシートで追い立てたところ瞬時に檻に入り、5時前、新しいカバ舎寝室に収容できました。

しかし、新しいカバ舎に収容された2頭のカバは捕獲の興奮と不安、環境の急変によって、その後、寝室のプールから出ようとせず、空腹にもかかわらずエサを食べようともしませんでした。ようやく9月に入ってオス、メスとも食欲が平常に戻ってきた状態で、あとはスムーズに展示プールと寝室との行き来が出来れば一安心です。

(飼育課: 中川哲男)

## 別表

	新カバ舎	旧カバ舎
建築年	平成9年7月完成	昭和42年
構造	鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート
規模	平屋建て、地上1階 一部地下	平屋建て、地下1階
総面積	2,600㎡	543㎡
建築面積	692.58㎡	229㎡
プール	屋外1槽(450㎡) 屋内2槽(60㎡×2)	屋外1槽(65㎡) 屋内1槽(115㎡)
水中透視	可能	——
水処理	濾過循環	——
飼育頭数	最大4頭	2頭 テツオ(オス) ナツコ(メス)
同居動物	エジプトガン、アマサギ	——

# 新しいカバの展示場 オープンまでの足跡

9月23日に新しいカバの展示場がオープンしました。今回はオープンまでの足跡をご紹介します。



1 以前、ゴリラが住んでいた場所です。  
(ゴリラは千葉の動物園に引越しました)



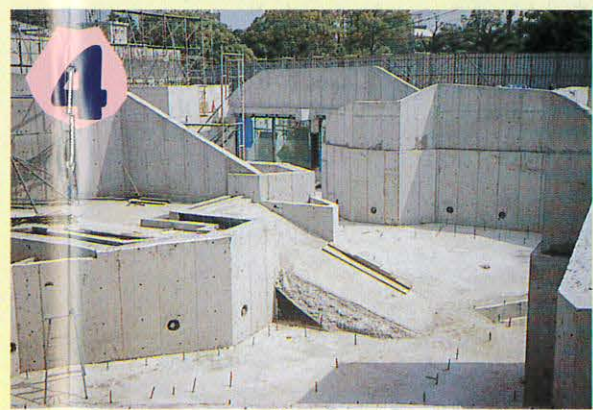
2 地面を深く掘りました。



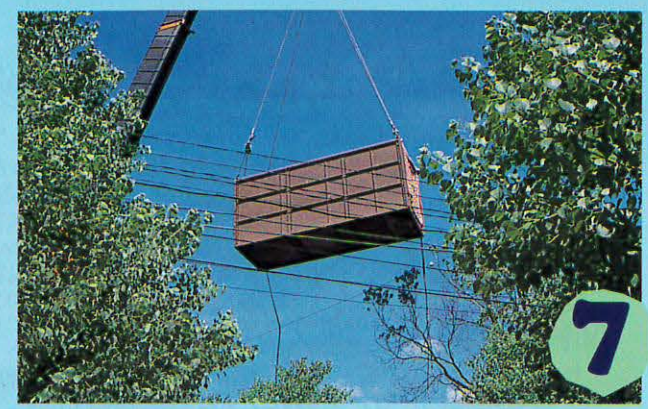
3 プールと建物を建てていきます。



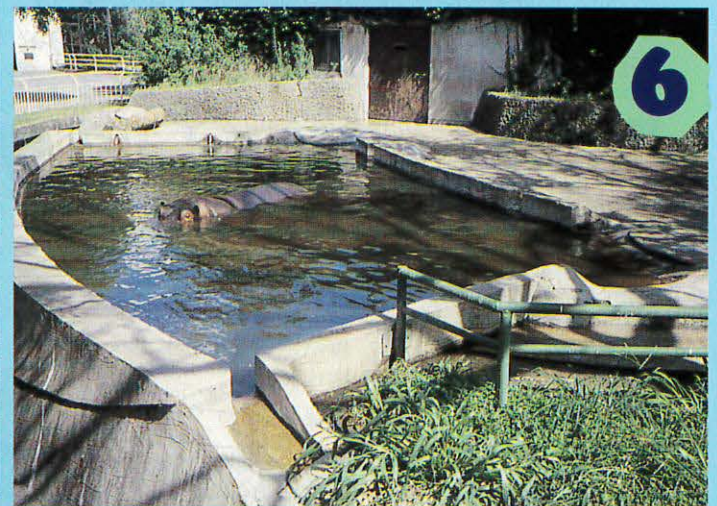
4 新しい展示場に初めて出てきたメスの「ナツコ」です。ガラス越しに水中のカバが観察できます。



5 コンクリートの下地ができました。

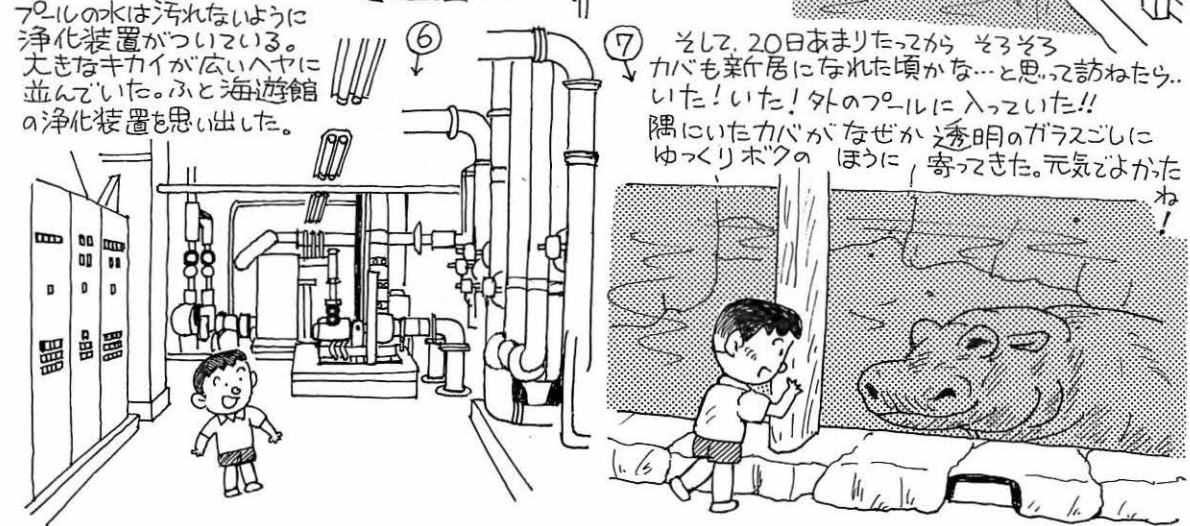
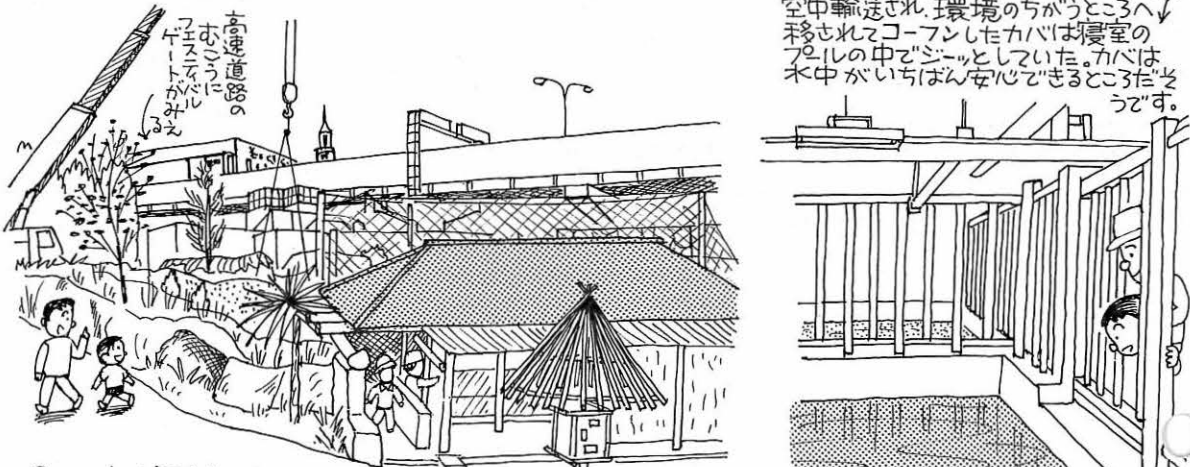
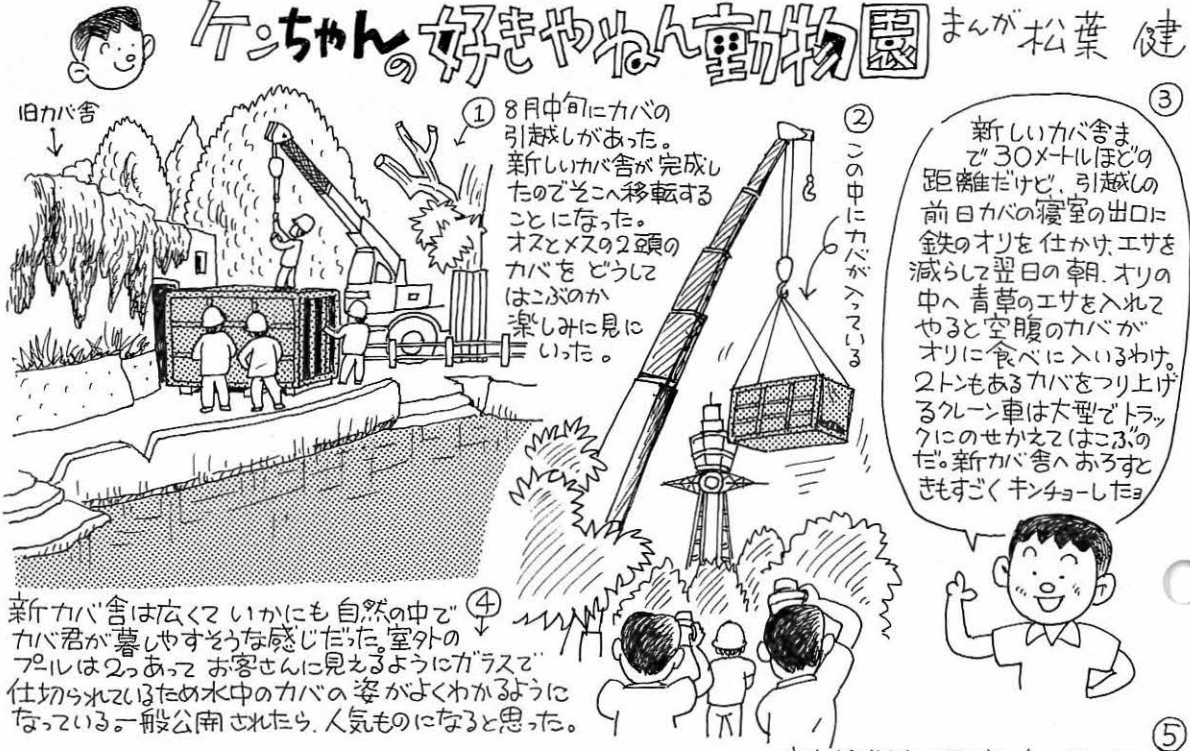


6 大きなクレーンにつり上げられて引越です。



7 2頭のカバは、昭和42年にできた展示場でこれまで暮らしていました。

# ケンちゃんの好きやねん動物園 まんが松葉健



8月19日 8月10日に熊本市動植物園から贈

られてきたエジプトガン5羽の検疫が終わったので、新カバ舎の展示場に移動しました。



フサオネズミカンガルー2頭が東京都恩賜上野動物園から贈られてきました。検疫終了後、夜行性動物舎へ移動する予定です。

8/20. フサオマキザルが1頭生まれました。

8/22. 7月31日に生まれたライオンの赤ちゃん3頭を富士自然動物公園(富士サファリ)に贈りました。

8/25. 保護していたドバトやウミウなどの鳥類9種17羽を自然復帰させました。

8/26. 1995年に生まれたサバンナモンキー2頭を伊豆バイオパークに贈りました。

8/27. 7月3日に生まれたレッサーパンダの赤ちゃんが巣箱から顔を出しました。

8月28日 アマサギ6羽がシンガポールのジュロンバードパークから贈られてきました。検疫終了後新カバ舎で展示する予定です。



8月29日 8月19日に東京都恩賜上野動物園から贈られてきたフサオネズミカンガルー2頭

の検疫が終わったので、夜行性動物舎で展示を始めました。



6月7日に生まれたアムールトラの赤ちゃん2頭に2回目のワクチン接種を行いました。

9月1日 6月7日に生まれた2頭のアムールトラの赤ちゃんが



今月もおもしろ情報満載

## ZOO DIARY



大きくなったので、母親とともに父親との同居を試みました。同居はトラブルもなく順調で、9月2日から親子4頭の同居展示を始めました。

“アイファー” (爬虫類生態館) でケニアスナボアが8頭生まれました。ヤギの双子が生まれました。

9/2. “アイファー” でアカダイショウが7頭生まれました。

9月3日 アカカンガルーが1頭生まれました。

カンガルーの場合、本当の出産日の確認が難しいので育児嚢から赤ちゃんの身体の一部が出たのを発見した日を誕生日にしています。



キイロアナコンダ1頭を東京都恩賜上野動物園に贈りました。

フィラリア予防のため、キツネの仲間とオオカミの仲間へ投薬しました。

9/5. 6月に保護した卵からふ化したカルガモのヒナが大きくなったので、自然復帰させました。

### お知らせ

- 天王寺動物園 秋の動物と花のフェスティバル 日時：10月12日(日)～11月3日(祝) (上記期間の日・祝日)
- 天王寺公園 秋期盆栽銘品展 日時：10月12日(日)～10月17日(金) 第66回大阪市菊花大会 日時：10月23日(水)～11月16日(日) 慶沢園ツリーウォッチング 日時：10月26日(日) 午後1:00～2:00
- ★9月23日より、遊泳中のカバの姿を観察できる新カバ舎がオープンしています。ぜひ、見にきてください。

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間はず？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー

### むし くらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの くらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

## 狼

その生態と歴史



平岩米吉著

### ニホンオオカミの正史

「狼の正史」といふ時代から、朝野と異なり、  
やがて絶滅していったニホンオオカミの生態と歴史を、  
数十年にわたって収集した正確な資料と、  
生態学の眼をもてまとめあげた。

### ニホンオオカミの生態と歴史の集大成

# 狼 — その生態と歴史 —

平岩米吉[著] A5判 308頁 定価2,678円(税込)

ニホンオオカミは今もどこかで生きのびているのか——。  
狼と生活をともにした実体験を基盤に、  
数十年にわたり収集した正確な資料と生態学の眼をもって、  
ニホンオオカミの特徴や大きさ、性質などを分析。  
今も根強く残っている残存説を検証するとともに、  
絶滅へといたる歴史をも詳述する「ニホンオオカミの正史」。

築地書館 〒104 東京都中央区築地2-10-12 TEL 03-3542-3731 FAX 03-3541-5799 振替 00110-5-19057  
◎ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。(直接郵送時の送料は一律400円です。)

新作  
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

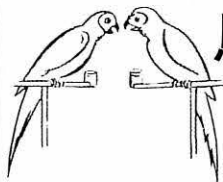


オールカラー  
**500円** 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201



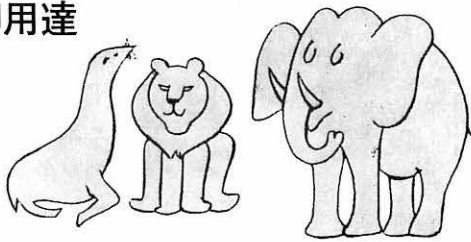
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社  
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)  
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

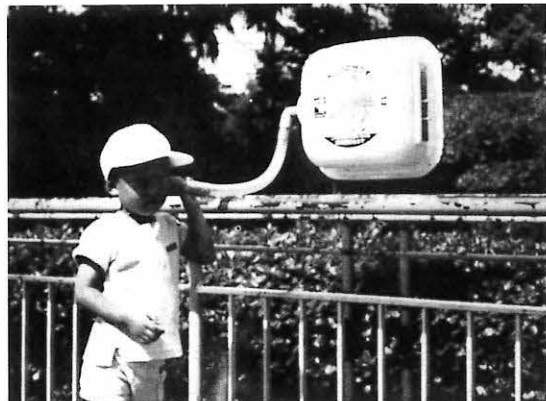


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 30円

動物園内での  
お食事、  
ご休憩は



動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
南園売店 TEL 06-771-7110



..... LOTTE .....

みんな大好き

コアラのマーチ

〈チョコレート〉      〈ストロベリー〉



# 365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに。  
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、カルシウムの量を600mg（成人1日あたりの所要量）までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



## 雪印 毎日骨太

300ml・100円／希望小売価格（税別）



一日  
愉快地  
たのしめる

◎園内3ヶ所（南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下）に各種のりものがあります。



久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1997年10月10日発行（毎月10日発行）第33巻 第10号（通巻386号）

編集 / 大阪市天王寺区動植物公園事務所  
発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗  
印刷所 / 株式会社 松村善進堂

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74  
電話 大阪 (06) 7 7 1 - 0 2 0 1  
振替口座 00930-2-37823

編集委員 井坂 進/馬詰好文/増野悦敏/中川哲男/藤田四郎/長谷川敏昭/落合正彦/宮下 実/榊原安昭/森本委利/高橋雅之/市川久雄  
長谷川真雄/中上正幸/佐藤紀子/萩原祐二/竹田正人/高見一利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/村上勇一/西村慶太/山元貞幸